

参 考 文 献

通産省大型工業技術開発 自動車総合管制技術
研究概要報告書(昭和54年4月)

1. システム設計および交通制御方式

- 1) 利用調査・社会的評価(未来工学研)
- 2) トータル・システムの詳細設計および基本アルゴリズム(トヨタ自工)
- 3) コンピュータ・ネットワークおよびハイアラキ構成(日本電気)
- 4) 専用シミュレータによる径路選択および交通流予測アルゴリズム(日立)
- 5) 交通流の現状調査解析(立石電気)

2. 通信方式および地上機器

- 1) 機器の耐環境試験(機械技研)

- 2) 高集積マイクロコンピュータによる路上機器の試作(日立)

- 3) ループ・アンテナの試作・工作等および情報用路上機器の試作(住友電工)

- 4) 緊急情報システム方式および機器試作(三菱電気)

- 5) ミリ波方式による通信方式(日本電気)

- 6) フェライト・コイル方式による通信方式(松下通信工業)

- 7) ループ方式による通信方式およびミニ・コンピュータによる径路誘導用路上機器の試作(日本電装)

3. 車載機器

- 1) 車載機器の総合試作および装着法(日本電装)

- 2) 液晶による表示機器の試作(東芝)

4. パイロットシステム

- 1) パイロットシステムの実験(自総管技術研究組合)



●数理計画法●

●12月例会 12月13日(木), 新任友ビル, 出席者30名
徳山博子氏(住友金属)による「鉄鋼業における数理計画の応用について」と題する講演があり, 現在同社で実際に用いられている各種の計画手法(スケジューリングを含む)について興味ある事例が報告された。つぎに茨木俊秀主査(京都大学)の「LP問題を多項式オーダーで解く新しいアルゴリズム」と題する講演では, 先日カナダの数理計画シンポジウムでも大きな話題となったKhachianのアルゴリズムの解説があり, 大いに出席者の興味をひいたようである。

●1月例会 1月11日(金), 京大会館, 出席者13名
津田孝夫氏(京大)より「多変数関数の大域的最大を求める反復解法について」の講演があり, 乱数を用いて関数の最大値を見つける興味ある手法を説明された。引き続き, 田村坦之氏(阪大)より「数理計画と最適制御の境界領域について」と題する講演があり, 離散型最適制御問題を多段階LP問題として定式化し, それに分解

原理を適用して解を求める手法について解説された。

●実施理論●

●1月例会 1月19日(土), 15:00~17:00, 東京工業大学(大岡山キャンパス), 出席者16名

Schultz & Slevin (1975) の第11章, On Mutual Understanding and the Implementation Problem: A Philosophical Case Study of the Appolo Moon Scientists について, 三原委員の担当で講読会を行なった。この第11章は, Churchman & Schainblatt (1965) の示した mutual understanding の概念を操作化する試みとなっている。さらに, 山田委員より, 実施理論の bibliography に関する R. K. Wysochi (1979) の論文および D. Robey (1979) の論文の紹介があった。

なお, 分科会第1回会合を, 同日13:30~15:00に行なった。分科会の目的として, 「経営システムの効率化を, 情報技術, 主としてコンピュータによる情報システムの実施によって達成しようとするプロジェクトについて, その生成から完了ないし発展に至る過程をモデル化すること」を暫定的に設定し, プロジェクトの有効性の概念の解明, プロジェクトのもたらす変革のマネジメントのあり方といった課題を設定している。このためのベシック・モデルとして, Triad Model やOR実施の循環モデルが設定されている。この分科会の会合は, 毎月第1土曜日, 東京工業大学(長津田キャンパス)にて行なう予定である。